

読書ナビ

「科学」「技術」の理解のために 理学部教授・山高 博

第33回

- 1 『化学の歴史』(アイザック・アシモフ著 玉虫文一、竹内敬人訳 筑摩書房 2010年)
- 2 『小林・益川理論の証明—陰の主役Bファクトリーの腕力』(立花隆著 朝日新聞出版 2009年)
- 3 『心は孤独な数学者』(藤原正彦著 新潮社 1997年)
- 4 『フィンチの嘴(くちばし)—ガラバゴスで起きている種の変貌』(ジョナサン・ワイナー著 樋口広芳、黒沢令子訳 早川書房 1995年)
- 5 『サイバネティクス—動物と機械における制御と通信』(ノーバート・ウィーナー著 池原止戈夫、彌永昌吉、室賀三郎訳 岩波書店 1957年)
- 6 『沈黙の春』(レイチェル・カーソン著 青樹築一訳 新潮社 2001年)
- 7 『センス・オブ・ワンダー』(レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳 新潮社 1996年)
- 8 『異常気象—地球が冷える』(小松左京編 根本順吉ほか著 旭屋出版 1974年)
- 9 『脳死』(立花隆著 中央公論社 1986年)
- 10 『犠牲(サクリファイス)—わが息子・脳死の11日』(柳田邦男著 文藝春秋 1995年)

著名なSF作家で生化学者のアシモフの著作から始めよう。1は著者の博学多才ぶりがうかがえる綿密な通史で、化学の歴史がほぼ網羅されている。化学の発展の歴史を通して、科学の成り立ちや科学的考え方を理解させてくれる。2は小林・益川理論にノーベル物理学賞をもたらした実験研究の現場からの報告である。激しい国際競争を戦う科学者の生き様を、臨場感・緊張感あふれる文章とカラー写真で解説するとともに、日本の理科離れや科学ジャーナリズムの現状に警鐘を鳴らしている。3では、ニュートン、ハミルトン、ラマヌジャンという3人の科学の天才の人生が語られている。天才だからその悩みや葛藤が数学者の目線から紹介されている。ガラバゴス諸島の進化調査を詳細に記録したピュリッツァー賞受賞作品4もお勧め。ダーウィン以来の種の進化が現在進行形で進んでいる様子が、一般の読者にもわかりやすく解説されている。

人間というものをシステムとしてとらえたらどうなるだろう

か。5はこの問題に対して機械やコンピュータとの対比を通して幅広く考察した古典的な名著である。

科学技術の進歩は人類にただ恩恵を与えるだけではないことを、我々はこの数十年の経験から学んできた。6はその負の部分を見直し、警鐘を鳴らした歴史的著作である。関連の7は、自然に生きることの大切さを教えてくれる。小品ながら味わって読んでみたい。地球温暖化対策は急務の課題であるが、40年ほど前の専門家の手になる8では寒冷化が問題とされていた。現在行われている議論と比べてみるとおもしろいだろう。文明の興亡と気象との関連を論じた章も興味深い。最後に、生命科学の最先端技術と社会との接点で生じた問題の一つを鋭く分析した本として9を挙げておく。この著名な著者の作品群の中でも論理性の点で傑作の一つに数えられる。我が国トップクラスのノンフィクション作家の渾身の力作10と併せて読むことを薦めたい。

おしえてライブラリー

第12回

立教大学図書館では多くの貴重資料を所蔵しています。それらを図書館本館参考室、人文科学系図書館、新座図書館の3館で順次展示しています。

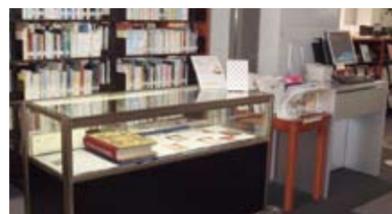
展示スケジュールについては立教大学図書館ウェブサイト内「所蔵資料・デジタルライブラリー」→「展示作品」からご確認いただけます。



本館(旧館入口左手)



人文科学系図書館(一階ゲート左手)



新座図書館(ゲート左手)

インフォメーション

来館不要のレファレンスサービス(オンラインナレッジサービス)を開始しました!

オンラインナレッジサービスとは調査依頼や図書館への要望と回答をウェブサイト上でやりとりできるサービスです。自宅からでも従来の図書館レファレンスサービスが受けられるだけでなく、過去のQ&Aや、同サービスに参加している他大

学のQ&Aも検索できるようになりました。ご利用をお待ちしております!



アクセス方法 図書館ウェブサイト内「MyLibrary(個人向けポータルサイト)」→「横断検索」→「オンラインナレッジ」

Your Library 第13号(通号72)

発行日 2011年1月24日
編集 井川 充雄(図書館副館長)
発行人 石川 巧(図書館長)
発行 立教大学図書館
http://www.rikkyo.ac.jp/research/library/
連絡先 TEL 03-3985-2630

立教大学図書館モバイルメニュー

携帯電話から

- 1 蔵書検索
- 2 開館スケジュール
- 3 図書館設置PC利用状況の確認ができます。



表紙にもなっているリンディスファーンの福音書は、レブリカといえどもかなりの重量感があり、赤ちゃんのように抱えないと持ち上げられないほどでした。また、今号は、2010年ノーベル化学賞を日本人が受賞したことになんて、理学部化学科の山高先生に読書ナビをご執筆いただきました。ご紹介いただいた著書は、名作、歴史的著作ぞろいです。ぜひ一読ください。

YOUR LIBRARY

特集 キリスト教とともに歩んだ聖書の軌跡

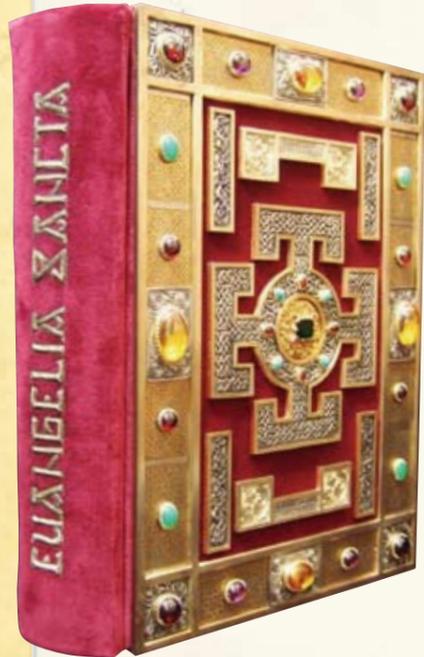
聖書は
こんなに美しい

no. 13
2011.01.24
WINTER ISSUE

キリスト教とともに歩んだ聖書の軌跡

立教大学図書館では数多くの貴重書を所蔵しています。聖公会によって創設された大学として、多くのキリスト教関連コレクションを集めています。今回はその中から、時代を超えて人々を魅了し続ける、特に貴重な三点の聖書（聖書関連資料）をご紹介します。

時代を超えてよみがえる 普遍的な美しさ リンディスファーンの福音書 The Lindisfarne Gospels



西暦698年頃にイギリス北東部のリンディスファーン修道院の主教であったイードフリスにより筆写、装飾が施された手書きの装飾写本です。8世紀頃に本の表紙が宝石で飾られ、その後ヴァイキングの襲撃などで失われたものを19世紀に復元し、現在は大英図書館にて所蔵されています。立教大学では「ファクシミリ版」と呼ばれる、オリジナルに忠実な複製を所蔵しています。

当時、本は非常に貴重なもので、個人で所有し持ち歩くのではなく、教会内の聖卓に置きその前に立ってページをめくるといった読み方が一般的でしたので、大型の表紙をこれほど豪華に飾ることができたのでしょう。

ケルト十字がかたどられた荘厳



な表紙をめくると、中にはマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの順に四福音書がラテン語で羊皮紙に記されています。各福音書の初めには、その福音記者の肖像、十字架をデザイン化したクロス・カーペット頁、テキスト冒頭の大文字を個人的に飾ったイニシャル頁が描かれており、その挿絵と文字装飾の緻密な美しさが、当時の人々の深い信仰を物語っています。

現在、下記大英図書館ウェブサイトのオンラインギャラリーで、装飾のある頁を中心に閲覧可能となっています。



鳥の群れをにらむ猫？ 細かなところに絵描きの遊び心が見てとれます



美しいケルト文様のかずかず



ルカによる福音書のクロス・カーペット頁
イニシャル頁（ラテン語テキストの行間に、10世紀末頃に書き加えられた古い英語の逐語訳が書き込まれています。これは現存する最も古い英語訳で、英語の原点を知る貴重な資料の一つです）



肖像（頭上にはルカのシンボル 牛が描かれています）

写本画像閲覧CD-ROM "Turning The Pages" の体験版

[http://www.bl.uk/collections/treasures/lindisfarne/lindisfarne_broadband.htm?middle\[2011/1/12\]](http://www.bl.uk/collections/treasures/lindisfarne/lindisfarne_broadband.htm?middle[2011/1/12])

いまだ残る多くの謎が 人々をひきつけてやまない 死海文書 The Dead Sea Scrolls

死海文書とは、紀元前2、3世紀から紀元1世紀頃までの大小800種以上の古い文書の総称です。

1947年に、死海北西部の洞穴にて羊飼いが偶然発見して以来、複数回にわたり発掘が行われました。

文書全体の9割はヘブライ語で、その多くが羊皮紙にインクで書かれています。旧約聖書の写本や聖書の注解書などで構成された、現存する世界最古の聖書関連文献です。

20世紀最大の発見のひとつとされており、立教大学ではレプリカを所蔵しています。オリジナル



は、イスラエル博物館、ロックフェラー博物館、アンマン博物館にて保管、展示されています。

現在、イスラエル考古学庁 (IAA) とグーグルが協力し、「死海文書」の全文をデジタル化するプロジェクトが進行中です。

公開は2011年に予定されており、世界中の注目の的となっています。



もっとも有名な英語の書物

The Holy Bible : 欽定訳聖書 Authorized Version "King James Bible"



2011年5月に、初版刊行から400年を迎えます。

中世ヨーロッパではラテン語の聖書に注釈として英語訳をつけることがあったものの、聖書全体を英訳化することを長いあいだ教会は認めていませんでした。

そんななか、1500年代に宗教改革の一端として聖書英訳化の動きが起こり、イギリス国王ジェームズ1世の命により『欽定訳聖書』(AV: Authorized Version、別名 King James Bible) が完成し、聖書はイギリスのひとびとの生活にかかせない存在となっていきました。

以来300年近く、英国国教会では、19世紀末まで欽定訳聖書を唯一の公式英語聖書として用いました。

その影響は広きにわたり、1611年の刊行以来、シェークスピアと

並んで英国人の精神や思想を育んできたといえます。「pearls before swine」(豚に真珠) といった、現代でもなじみのある慣用句の多くは、欽定訳聖書の時代から変わらず受け継がれたものです。

かつて本学の英米文学科でも欽定訳聖書の読解が必修となっていました。



～参考文献～

- 西原廉太『聖公会が大切にしてきたもの』(聖公会出版 2010)
- クリストファー・ド・ハメル著 川野美也子ほか訳『聖書の歴史図鑑：書物としての聖書の歴史』(東洋書林 2004)
- 近川澄子『写本遍歴の旅』(リトン 2000)
- 池田裕『死海文書Q&A』(ミルトス 2000)
- フィリップ・R. デイヴィス、ジョージ・ブルック、フィリップ・R. キャラウェイ著 池田裕訳『死海文書大百科：ビジュアル版』(東洋書林 2003)
- 寺澤芳雄『名句で読む英語聖書』(研究社 2010)
- 『世界大百科事典』(平凡社 1998)
- 『聖書と日本文化』展実行委員会編集『聖書と日本文化』(立教学院 1999)